

〔1〕就労・日中活動支援部会

★構成員：生活介護事業所・訓練等給付事業所・地域活動支援センター

第1回 平成 27 年 8 月 24 日（参加者 18 名）

- 八尾市障がい福祉計画・就労日中関連記載事項についての報告
- 上記に関する意見交換
- 日中活動の場での、利用者の高齢化に関する課題について、意見交換

＜議論内容・課題等＞

- ・ 優先調達法以降の新たな取り組みがなかなか進んでいない。
- ・ 工賃の引き上げや作業受注に関する各事業所での努力や工夫。
- ・ 高齢化により、できなくなっていく過程をいかに支えるか。
- ・ 生活全般の支援は困難でありながら、他の支援者との連携が困難で実際には支援している。
- ・ 知的障がいや精神障がいの方が認知症を発症した際の見極め。
- ・ 介護保険へ移行する際の支援、介護保険を利用しながら通所される方への支援。
- ・ 医療的ケア・支援体制。

第2回 平成 28 年 2 月 8 日（参加者 23 名）

- 2事業所より、事例をもとにした報告
- 上記に関する意見交換

＜議論内容・課題等＞

- ・ 年齢を重ねても、心身の機能が落ちても、「仕事をしたい」という利用者の気持ちを大事に支援することの大切さ、難しさ。
- ・ 本人の希望があっても、就労型の通所施設では、通所の介護が困難であるために、通所し続けることができない実態。
- ・ 介護保険へ移行することが、サービスの縮小や費用負担の増になってしまう問題。
- ・ 障がい福祉の支援者と介護保険ケアマネジャー、事業所との連携。

第3回 平成 28 年 3 月 28 日（参加者 24 名）

- 1、2回目をふりかえっての意見交換
- 就労への取り組みに関する課題（就労移行、福祉的就労の両方について）

＜議論内容・課題等＞

- ・ 現在通っている方は比較的元気であり、介護保険利用などの実感がわからないが、今後の課題とは感じる。
- ・ 就労 A での取り組みが本人にとって居心地よく、なかなか次のステップにいけない。
- ・ 本人は仕事という意識をもって活動に取り組めるようになっていくが、工賃保障が困難。
- ・ 就労に関して、企業と本人をつなぐシステムが必要。社会に対する働きかけも必要。

(2) 入所・グループホーム支援部会

★構成員：施設入所支援事業所・共同生活援助（GH）事業所

第1回 平成27年5月27日（参加者10名）

- 八尾市障がい福祉計画（第4期）の確認と意見交換
- 今年度の年間テーマの検討→「暮らしの場での高齢化を考える」
- 年間予定と活動内容の検討→高齢期支援の研修等、年4～5回程度

＜議論内容・課題等＞

- ・ 病気や怪我による通院、入院時支援は、緊急の課題。
- ・ 利用者は高齢化、重度化している。
- ・ GHの開設は、物件確保、世話人確保、防火設備等、ハードルが高い。
- ・ パブリックコメントの活用。

第2回 平成27年9月9日（参加者10名）

- 事例報告会

事例①「加齢にともなう心身機能の変化 ～成人期支援の必要性～」

事例②「終末期ケアを通して ～グループホームの役割と課題～」

事例③「病気による生活状況の変化 ～プラス面に着目して～」

＜議論内容・課題等＞

- ・ 福祉と医療の役割の分化が必要。福祉は、生活支援が大切。
- ・ 医療につなげていく役割がある。
- ・ 老化をマイナス面だけでなく、プラス面に視点を当てた支援が必要。
- ・ 介護の知識や技術の研修を実施。
- ・ グループホームの機能や役割の整理。

第3回 平成27年11月27日（参加者14名）

- 研修テーマ「暮らしの場から障がい者の高齢化を考える」

講師 石田 京子 先生（大阪健康福祉短期大学）

＜議論内容・課題等＞

- ・ 老化をどのようにして捉えるか。
- ・ 加齢に対する発達観。
- ・ ICF（国際生活機能分類）を参考にして、具体的で客観的な把握が必要である。
- ・ 健康的な老化のために必要な視点。
- ・ 医療連携と終末期ケアの課題。

第4回 平成28年3月3日（参加者28名）

- 第4回世話人交流会

今年で4回目となる。グループホームで働く世話人が、交流を通じて、学習機会や意識向上につなげることをねらいにしている。テーマは「暮らしの場での高齢化を考える」として、高齢期を迎えた利用者の支援について、グループワークと意見交換を行った。

<議論内容・課題等>

- 老化のプラス面とマイナス面。
- 高齢化した利用者支援についての不安。
- 高齢化している利用者の生活支援で大切にしていきたいこと。

〔3〕地域生活支援部会

★構成員：居宅介護事業所

第1回 平成27年7月28日（参加者10名）

● 利用者の趣味活動について

＜議論内容・課題等＞

- ・ 各事業所の利用者はどんな趣味を楽しんでいるのか。その場所や行為の手段、発信の場等について意見交換を行う。
- ・ 趣味活動を満喫する一方で、困っている部分もたくさんあり、まだまだ皆様が思うように楽しむことはできていない。

第2回 平成27年11月25日（参加者11名）

● 利用者宅での調理についての工夫や問題点

＜議論内容・課題等＞

- ・ 訪問先での調理で病気や障がい、高齢に対応した調理方法や問題点について意見交換を行う。

第3回 平成28年2月4日（参加者12名）

● 研修テーマ「訪問介護における医療に関する疑問」

講師 大山 恭子 所長（ふれあい訪問看護ステーション）

＜内容＞

- ・ 訪問介護での医療の知識、介護職ができる医療行為について。

〔４〕障がい児支援部会

★構成員：八尾保健所・（府立・市立）支援学校・児童発達支援センター・児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所・居宅介護事業所・日中一時支援事業所・短期入所事業所

第1回 平成27年6月29日（参加者17名）

- 年間テーマに基づき、現状の共有、意見交換
- 各機関の状況交流

＜議論内容・課題等＞

- ・ やおっこファイルの活用について、家族の記入のしやすさに着眼した支援など。
- ・ 児童のサービス利用が広がる現状で、重要となる親・家族の役割について。
- ・ 学齢期の余暇の充実と、卒業後の余暇の過ごし方。
- ・ その他、片親家庭に対する家族支援の課題、等。

第2回 平成27年11月30日（参加者14名）

- ライフステージにおける、知的障がい児・学齢児の課題について
- 現状報告・情報共有、等

＜議論内容・課題等＞

- ・ 複数の事業所を利用する子どもが増えているが、支援の統一が図れていない。
- ・ 卒園後、卒業後の相談が保護者からあるが、サービスや制度や資源に関する理解がない。
- ・ 学校により送迎時の協力は様々。より安全な児童の引き継ぎ方法の検討が必要。

第3回 平成27年12月1日（参加者11名）

- ライフステージにおける、未就学・身体障がい児・重心児の課題について
- 現状報告・情報共有

＜議論内容・課題等＞

- ・ 障がいの「気づき」「発見」時の支援について、丁寧な関わりが必要だが、相談窓口が少なく、対応できていない状況である。
- ・ 医療的ケアが必要な子どもが増えている。対応できる支援機関が少ない。在宅ケアとして、ヘルパーを利用しているが、このままで良いのか。
- ・ 障がい児相談支援の不足で、セルフプランに頼らざるを得ない状況。また、資源がなく、希望通りの計画はできない。緊急性などでサービスを選ぶ状況になっている。

〔5〕精神保健支援部会

★構成員：精神科病院、精神科クリニック、就労継続支援B型事業所、八尾保健所、八尾市社会福祉協議会、相談支援事業所

第1回 平成27年8月18日（参加者9名）

- 各事業所より現状報告及び意見交換

＜議論内容・課題等＞

テーマ「障がい者とその家族の高齢化の現状～ざっくばらんに話し合おう～」

- ・ 利用者の高齢化にともない、住居や金銭管理の問題、ADLの低下、介護保険への移行時の対応、親亡き後の生活をどうするのか、高齢となった親への支援等の課題を共有。
- ・ 今後は高齢者分野との連携が必須であることから、次回研修会の開催へ。

第2回 平成27年12月16日（参加者14名）

- 研修テーマ「地域包括支援センターの概要～明るく活力ある地域社会の構築を目指して～」

講師 吉川 尚子 氏（八尾市健康福祉部高齢福祉課）

＜議論内容・課題等＞

- ・ 地域包括ケアシステムや八尾市の高齢化の現状、介護保険法の改正、地域包括支援センターの役割や機能、権利擁護、ケアマネジメントについてご講演いただいた。
- ・ 参加者からは「地域包括支援センターに、まずは相談をしてみたいのだとわかった」との声や、高齢者分野との連携に関して「障がい者への理解も深めていただけたら連携がよりしやすくなる」との意見が挙がった。

第3回 平成28年2月26日（参加者12名）

- 研修会及びグループワーク

＜議論内容・課題等＞

- ・ 八尾市地域包括支援センター職員研修会に精神保健支援部会が参加。
八尾こころのホスピタル柏井洋平先生より「精神疾患の理解と対応について」とのテーマでご講演いただいた。
- ・ グループワークでは、「連携する時のエチケットやマナーについて～あなたなら、どんな風に相談してほしいですか？」について、地域包括支援センター職員と部会メンバーが意見交換。お互いの分野について知らないことが多いことを再認識した。顔の見える関係になることで今後の更なる連携につながっていく場となった。